

滿鐵の1萬キロ記念と

大村總裁の講演

滿鐵では今回線路延長1萬キロに達したるを記念し、記念出版其他種々なる記念の催しを實行しつゝあるが、總裁大村卓一氏は10月21日奉天から全國に向つて記念放送を行つた。古稀を越す老齡とも思へぬ確かりとした聲で益々其健在ぶりを想像出来るが、特に其講演は意義深いものであつた。

大村總裁は先づ滿鐵の沿革を述べ、使命の重大なるを述べ、事變後4千キロの新線を建設したる鐵道技術家の偉大なる努力を説き、尊き多數の殉職者が人柱としての英魂に感謝し、而して今回の1萬キロを第1段階として近く2萬キロ、3萬キロ或は5萬キロにも延長建設しなければならない事情にあるとし、次の如く述べた。

滿州國は今や石炭を年産1千萬噸とし、鐵を年産5百萬噸とするの計畫で既に實行に進んでゐる、之は世界産額の20分の1である、之に應じて鐵道も世界總延長20分の1なる5萬キロに達しなければならぬ。勿論延長するばかりが能ではないが、他の産業交通に順應して行かねばならぬ云々と、指導者的な信念のこもつた力強い放送であつた。

東京と奉天と、東西殆んど時を同ふして、土木信念に發足した兩巨頭の全國放送を得た事は土木時代の意義深いものがある。

國有鐵道に於ける軌條に就て	(堀越 一三)	(富永 正義)	
伊東線に就て	(今井 潔)	捷水路の效果に就て	(安藝 皎一)
眞那板隧道の切擴に就て	(市川 順市)	電力國家管理に於ける水力開發に就て	
見學場所 鐵道省大宮工場、大宮公園		(高橋 三郎)	
第3日講演會及見學會		水豊堰堤工事に就て	(久保田 豊)
期 日 10月20日		淨化下水を利用したる一給水計畫に就て	(板倉 誠)
會 場 帝國鐵道協會(丸ノ内3の4)		緩速式砂濾過法の濾過速度に就て	(廣瀬 六郎)
講演開始 (午前9時)		東京港の沿革に就て	(森田 三郎)
勝岡橋に就て	(安宅 勝)	航空測量と線路選定	(渡邊 寛治)
第一只見川橋梁の架設	(大石 重成)	見學集合 濱松町恩賜公園内 午後1時	
熔接鐵道橋に就て	(稻葉權兵衛)	行 程 芝浦岸壁よりランチに乗船東京築港を	
段落ち個所に於ける流體運動 (大坪喜久太郎)		見學しキリンビール工場を見學解散。	
利根川下流部に於ける架橋並びに水理の特異性			